

らこま

Racotte
vol.99
発行 ながおか市民協働センター

今月のインタビュー

市民活動の名バイプレーヤー
恩田富太さん

活動地域 長岡

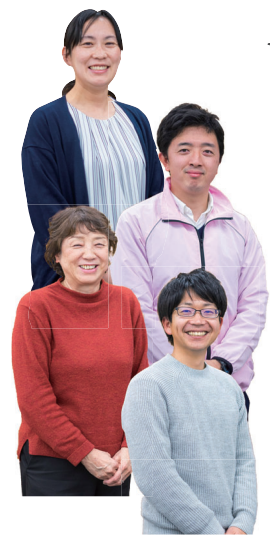
活動分野 | 地域づくり
団体での役割 | 事務局
特技 | 広告デザイン、俳句
私の取扱説明書 | リーダーを助ける

直感がさえる、みんなのムードメーカー
大橋由美子さん

活動地域 栃尾

活動分野 | 地域づくり
団体での役割 | アイデアと力仕事
特技 | 裁縫
私の取扱説明書 | 直感で突っ走る

ながおか市民協働センターの 2020年度を振り返って



2020年、新型コロナウイルス感染症の流行により私たちの生活は一変し、市民活動にも大きな影響が出ました。メンバーと直接会って話すことができない、苦しんでいる人々を支援したいけれど思うように活動できない、通常の事業ができず収益が減ってしまった...協働センターは、そのような中でもあきらめずに、様々な工夫をこらして活動するみなさんを見てきました。そして、私たちも、みなさんの頑張る姿に背中を押されながら、感染症流行下での活動のし方を模索してきました。

この未曾有の危機の中、誰もが納得できる答えはないのかもれません。それでも、私たちがそれぞれの強みや知恵を持ち寄り、手を取り合えば、その答えに近づくことはできるのではないのでしょうか。2021年度も、協働センターはみなさんが差し伸べた手を必要としている誰かにつなげられるように、「コロナ禍での市民活動」に向き合っていきます。

2020年度ながおか市民協働センターの取り組み

① 「まけない奨励金」で コロナ禍の市民活動を応援!

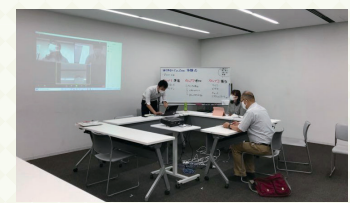
新型コロナウイルス感染症流行下でも、「まちを元気にしたい」「誰かの役に立ちたい」と活動を続ける活動団体のみなさんを支援すべく新設された「**新型コロナウイルス感染症にまけない市民活動団体奨励金(まけない奨励金)**」。新型コロナウイルス感染症対策の強化や、新しい生活様式の普及に取り組むための経費を補助し、NPO法人や市民活動団体など800を超える団体にご活用いただきました。

② 団体のオンライン会議ツール活用を支援!

団体内での打ち合わせやイベントの開催など、今や市民活動に欠かせない存在となったオンライン会議ツール。協働センターでは、団体の皆さんのオンラインでの活動を支援するため「**はじめましてのZoom体験会**」を開催。参加者のみなさんには、ご持参いただいたパソコンやスマートフォンを実際に操作していただきながら、会議の設定方法や参加方法をお伝えしました。



「まけない奨励金」は、新しい生活様式に則って活動するために必要な消毒液や非接触型体温計、空気清浄機の購入などにご活用いただきました。



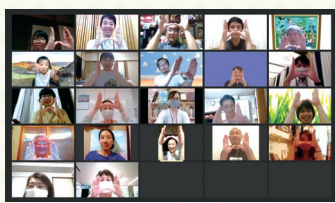
「はじめましてのZoom体験会」の様子。参加者の中には、この体験会で学んだZoomの使い方をもとに、ご自身でオンラインイベントを開催した方もいらっしゃいました。

③ オンラインを活用したイベント運営に挑戦!

毎年、一般市民の方を対象に開催している講演会。2020年度は、社会問題に関する映画の鑑賞と参加者同士の感想共有やパネリストによるトークセッションをセットで行う「**みらいシアター**」を、6月と9月にオンラインで開催。参加者の方からは、「映画の後の感想共有が楽しかった」「映画のテーマに対する理解が深まった」という声が聞かれました。

毎年9月にアオーレ全館を使って開催している市民活動の文化祭「**市民活動フェスタ**」。2020年度は、団体の活動を紹介する動画を作成しました。動画は、市民活動フェスタのYoutubeチャンネルに掲載したほか、アオーレ長岡のナカドマや大手通のビジョンでも期間限定で放送し、市民の方に団体の活動を知らせる機会となりました。

活動紹介動画はこちら



2020年6月に開催した「みらいシアター」第1回目の集合写真。視聴した映画「happy-しあわせを探すあなたへ」にかけて、手でアルファベットの「H」をつくって撮影しました。



活動紹介動画の撮影風景。団体の魅力が伝わるように、これまでの活動写真を使ったスライドショーや、活動の様子を撮影した動画の使用など、それぞれに合った方法で作成しました。

市民活動に関する相談受付中!

協働センターでは、人物・団体紹介や広報PR、資金調達、企画・運営など市民活動に関するご相談を承っています。感染予防のため、2020年度よりZoomやGoogle Meet、Facebook Messengerなどを利用したオンライン相談も受け付けております。

【開館時間】午前8時～午後10時
※新型コロナウイルス感染症予防のため、現在は午後9時までの開館となっております。
【コーディネーター相談受付時間】午前9時～午後6時(月～金)
【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)
※土日祝日や時間外のご相談については、事前にご予約ください。

新年度事業の事前相談受付中!

長岡市未来を創る 市民活動応援補助金

2021年4月～2022年3月に実施する事業への補助金申請に関する事前相談を受付中です。市民活動企画をご検討中の方は、お早めにご相談ください!

※新年度の補助事業は、長岡市の令和3年度予算の成立が前提となります。
※補助事業の内容が今年度から変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

今年度の補助制度はこちら(参考)



地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

恩田 富太さん(45歳)
自営業／花火の郷しんぐみ会

1975年長岡市生まれ。広告、デザインなどの特技を活かし、郷土史を中心に様々な形で地域活動に関わってきた。



●地域の歴史や文化を紹介している北越辰戦争伝承館。花火大会の時期になると期間限定で地元花火師の歴史を展示しています。

活動の根っこ

歯車でありたい
恩田 富太

過去と未来をつなぎ ふるさとを後世に残す歯車になる

「何一つ自分からは始めてないです」と、いつの間にか活動に巻き込まれている恩田富太さん。学生時代は地元に関心がなく、長岡が嫌いで上京。家庭の事情で2004年にUターンした際も、戻る理由を無理やり探して自分を納得させたそうです。

そんな恩田さんが地域に関心を持ち始めたきっかけは、2008年に子どもたちに郷土史を伝えるための漫画作成に携わったこと。広告業界に勤めた経験を見込まれ「長谷川泰を語る会」から声がかかったものの、最初は波々引き受けたそうです。しかし、「取材を通して、先人より引き継がれる人間性や市民性など長岡の良いところに気づくことができ、郷土史を知ることによって自分の世界が広がりました」と、地域を見る目が変わりました。

その後は、郷土史を通じた市民活動に多数関わってきた恩田さんですが、今は「花火の郷しんぐみ会」の活動が中心とのこと。新組地区には今なお花火師がいて、花

火の歴史や文化を地域に根付かせようと活動しています。毎年8月に開催する花火の郷しんぐみ煙火大会では、地域の先人をテーマにした花火や、地元の子もたちがアナウンスする花火を打ち上げているそうです。「地元企業や町内会から寄付をいただき花火を打ち上げています。地域の協力で開催できているので、今後も無理のない範囲で継続させていきたいです」。

恩田さんが活動で大切にしているのは、組織の歯車となりメンバーの良さを引き出すこと。今後は若手とシニア世代をつなぎ、多世代が交流しながら地域の魅力を後世に残し、地域が好きなお客を増やしたいそうです。「ふるさとへの愛着は、そこに住んでいる、住んでいないに関わらず大切。ふるさとを好きになってもらう手段の一つとして郷土史を活用し、地域の魅力を発信していきたいです。過去と未来をつなぐ歯車として動く恩田さんの活躍で、これからも地域が上手く回っていくでしょう」。

大橋 由美子さん(49歳)
専任児童厚生員／なじですかい

1972年長岡市栃尾生まれ。その後の人生のほとんどを栃尾で過ごす。居酒屋を営む夫と息子2人の4人家族。



●「なじですかい」結成当時の写真。居酒屋に集まり、地元への想いや、やりたいことなど熱い議論を夜な夜な繰り広げました。

活動の根っこ

であい
大橋由美子

もジャズイベントや、婚活イベントなど様々な企画を実施。また近年、栃尾の人気イベントとして定着している「トチオノアカリ」の立ち上げにも関わるなど、仲間の輪を広げながら新しい栃尾の楽しみをつくってきました。

そんな大橋さんは、児童クラブの職員を約8年に渡り務めています。その経験もあり、関心が「地域外に栃尾を発信することから、「身近な人々の居心地の良い居場所づくり」に向かうようになってきたそう。「最近子どもたちの居場所について問題意識を持っています。お年寄りが多い栃尾で、子どもとお年寄りが集えるようなゆったりしたスペースがあるといいなと考えています。今までの活動と同じように、夢の実現は誰かに話すことから。「何か動きは始める時には信頼の置ける『なじですかい』のメンバーに真っ先に相談します」とのことでした。

栃尾を愛する熱い語り合いから 生まれた固い結束

栃尾が大好きな地元のメンバーで結成した「なじですかい」は、女性目線で栃尾の自然やおいしいものの魅力を発信する団体です。団体の結成は大橋さんの夫が営む居酒屋のカウンターでの熱い語り合いの中から。「別の団体で活躍する人たちも居あわせていたので、話はどんどん進みました」。結成初年度から、女性目線を活かして、トレッキングやバーベキューなどを組み合わせた栃尾の魅力を体験してもらうイベントを年に3回も企画し、地域内外から注目を浴びました。「あんな大変なことよくやったよね」と当時の盛り上がりを取り返ります。

活動の中で、次々とアイデアを提案してきたという大橋さん。「何でも直感で突っ走るの、それを引き止めてくれる人が必要なんです(笑)」。直感力を受け止めてくれる仲間とともに、その後

活動PickUp!

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します



小国文化フォーラム

芸術・文化・歴史を後世に伝える

小国



1988年の小国芸術村オープンを機に「小国芸術村友の会」を発足。小国地域の芸術・文化・歴史を後世に伝える活動や東京の芸術家及び地元文化人の活動サポートを行ってきました。その後、現団体となり、文化講演会や昔話を披露する「おぐくの雪語り」の開催と、年6回の機関紙発行を通して歴史や文化を伝承しています。現在は、設立20周年を記念し、これまでの活動をまとめた冊子を作成中です。

リコーダー音楽部

リコーダーで届ける癒しのアンサンブル

長岡



リコーダーのアンサンブルを大人の部活みたい楽しんでる団体です。2019年11月のみしま産業まつりでの演奏を皮切りに、地域のミニコンサートや団体のつながりで声をかけてもらった演奏会に出演しています。リコーダーの演奏は脳の活性化につながり、聞く人には癒しの音色をお届けすることができます。細く長く、そしてゆる〜く音楽を楽しみながら、今後も様々な地域に出向いて演奏活動を続けていきたいです。

NPOトキめキラボ

ワクワクときめく未来を研究中

長岡



不登校の子どもたちの居場所をつくらうと、ロボット製作などのものづくり活動を始めたことをきっかけに、2003年から活動をスタートしました。現在は、ロボコン競技大会の運営や他団体とコラボした海岸清掃などに取り組み、地域活性化のために何をしたらよいかを楽しみながら研究実験しています。これからも子どもたちが喜ぶ姿をやりがいに、明るい未来につながる研究活動を続けていきます。

さわやか苑長岡藤沢

地域をつなぐ一針

長岡



介護施設「さわやか苑長岡藤沢」では、ご利用の方がケアの一環として縫った雑巾を近隣の学校に寄付する「雑巾プロジェクト」を実施。2016年から寄付を始め、これまでに2,100枚を寄付させていただきました。このプロジェクトは、ご利用者の方の楽しみだけではなく、雑巾の材料を寄付して下さる地域の方や近隣の学校と私たちをつなぐきっかけにもなっています。今後も、地域とのつながりを大切に活動していきたいです。

みんなの声

投稿テーマ 「長岡みんなのSDGs」

投稿
随時募集中

投稿方法

投稿フォームを使う
協働センター窓口で投稿する

QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。



投稿者
子ビ
さん

最近エコカーを購入しました! ガソリン車より少し高いですが、地球温暖化を考えるといい買い物をしたと思っています。もちろん燃費も良くなりさらにECO運転を心がけてます!地球の為に選ぶこれからもやっていきたいです。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の目標"SDGs"に関する投稿を掲載しています。

SDGsに関する詳細は、2020年から2022年4月号の「虎の巻」をご覧ください。